ふるさとかぬまの生きもの図鑑

いちご いちえ

Kanuma Tochigi Japan

鹿沼市

CONTENTS

ふるさとかぬまの生きもの図鑑

目次

はじめに …… 1

鹿沼市について …… 2

掲載種の選定 …… 4

植物 …… 5

昆虫類 …… 129

鳥類 …… 231

魚類 …… 263

両生類 …… 271

は虫類 …… 277

ほ乳類 …… 283

索引 …… 294

参考文献 …… 314

おわりに …… 316

鹿沼自然観察会の紹介 …… 317

監修・執筆 …… 318

はじめに

私たちのふるさと鹿沼市は、緑豊かな森林、清らかな水の流れる河川などが数多く残され、美しい自然に囲まれたまちです。そこには、先人が長い時間をかけて大切に育み遺してきた「生物多様性」があり、私たちは、食べ物や美しい景観などの様々な恩恵を享受しながら共に暮らしてきました。

こうした豊かな生物多様性は、かけがえのない財産であり、私たちには、これらを守り次世代へ継承していく責務があります。

しかしながら、開発を伴う経済活動による生息地の減少及び環境の変化や心ない人たちの外来種の持ち込み、希少種の乱獲などによって、その生態系は年々脅かされています。私たちも、生態系の一員であることを強く自覚し、貴重な生物多様性との共生を実現していかなければなりません。

今回、発刊となります『ふるさとかぬまの生きもの図鑑』は、市内全域で生育・生息する動植物1,209種を掲載しております。身近で見られる動植物をすぐに調べられる地域版の図鑑となっており、本市特有の生物多様性の保全を推進する史料として大変意義のあるものとなりました。

この図鑑を用いた自然観察や学習用教材としての活用を通して、本市の美しく豊かな自然環境への愛着や誇りを養い、郷土愛の醸成につながることを期待しています。また、そうしたふるさとへの温かい心が、生物多様性の保全に結ばれることを願っております。

最後になりますが、発刊にあたり、写真や資料の提供をはじめ、執筆から編集まで多大なご協力をいただきました鹿沼自然観察会の皆様、監修に携わっていただいた栃木県立博物館の皆様、また、写真や資料の提供をしていただいた関係者の皆様に深く感謝を申し上げましてごあいさつといたします。

令和２年１０月

鹿沼市長　佐　藤　　信

鹿沼市ってどんなところ？

本市の面積は490.64㎢、首都東京からおよそ100㎞の圏内にあり、北関東の中央部に位置しています。

栃木県の中では、県央西部にあり、市の北部は、国際観光地の日光に隣接しています。市の南東部は、東北縦貫自動車道鹿沼インターチェンジがあり、近接して北関東自動車道が走っています。

また、県都宇都宮市と隣接しており、東北新幹線との連絡も容易な位置にあります。市内には、東武日光線とJR日光線が通り、いずれも東京までの所要時間は約80分であり、高い地理的優位性を有しています。市内の約7割は森林で覆われており、西北部の奥深い山々を源として、大芦川、荒井川、粟野川、思川、永野川が、日光方面からは黒川が南流しています。

西北部の奥深い山々と、その山々を源流とする幾筋もの河川は、山と高原、清流と渓谷という特色ある美しい景観を成しており、前日光県立自然公園を形成しています。

市街地は、黒川の河岸低地及び思川と粟野川が合流する平地で形成されています。

美しい自然環境と多様な生態系を未来へ

豊かな森林や幾筋もの清流、田園や里山など、本市の恵まれた自然環境により織り成される情景は、私たちに潤いや癒し、やすらぎを与えてくれます。このふるさとの原風景は、素晴らしい景観を形成するだけでなく、多様な生態系を育み、私たちと共に歩み生きてきました。

しかし、利便性や快適性を必要以上に求める私たちの一挙一動が、掛け替えのない自然環境に負荷を与え、その多様性が失われつつあります。

本市の貴重な生物多様性について知り、私たちにできることは何かを考え、行動に移していかなければなりません。そして、この壮麗な自然環境に誇りをもち、次の世代に継承していかなければなりません。

自然との共生を実現するため、まずはこの図鑑を通して、本市の多様な生態系について知ることから始めてみましょう！

本書の掲載種の選定について

現在、国内ではわかっているだけで、特に種類数の多い昆虫では3万種、植物が6千種いるとされています。本書では、それらの中から、鹿沼市域に生育、生息する生きものを紹介しています。

確認されている鹿沼市域の動植物の種類数は、鹿沼市域の動植物に関わる主要な調査報告書や栃木県立博物館記録などの各種文献を基に編集された『鹿沼市動植物リスト2015』において、下表のとおりとなります。

分　類	確認種類数	
植　物	166 科	2172 種
昆虫類	356 科	3577 種
鳥　類	46 科	176 種
魚　類	14 科	37 種
両生類	6 科	15 種
は虫類	7 科	14 種
ほ乳類	17 科	39 種

これらすべての種を紹介することは、紙面の都合上できません。そこで、執筆者達の観察経験を加味した掲載種の選定を行い、「出会う頻度の高い種」を重点的に収録することとしました。

一方、出会う頻度は低いが、「環境指標や分布拡大など、話題性の高い種」についても掲載することとしました。

例えば、昆虫のチョウ目ガ類に関しては、500種以上鹿沼市域で確認されていますが、特に目を引く大型種と、昼間、チョウと間違いやすい種に限定して紹介するなどしています。

その結果、掲載種の数は下表のとおりになりました。

分　類	確認種類数
植　物	500 種
昆虫類	475 種
鳥　類	136 種
魚　類	29 種
両生類	16 種
は虫類	14 種
ほ乳類	39 種

なお、紹介した生きもの以外にも、貝類やカタツムリ、ナメクジなどの軟体動物、ムカデ、ヤスデなどの多足類等、調査不足や記録不十分なため紹介できなかった種類の生きものがいます。続編が刊行される際は、これらの種も掲載できるよう今後も調査を進めていきます。

鹿沼自然観察会

アヤメ　草本

● **被子植物／アヤメ科**

平地から低山地のやや乾いた草原に生える多年草。葉の中肋は目立たず長さ30～50cm、幅5～10mm。花期は5～7月、花茎は高さ30～60cm、茎頂に2～3個の花をつける。花は紫色で外花被片（外側の花弁）中央に分枝した黄色いすじ（細脈）がある。内花被片は大きく直立する。果実は円柱形で3室に分かれる。和名は外花被片の紫色の筋が綾の目に見えるため。

キショウブ　草本

● **被子植物／アヤメ科**

平地の小川、溝、水湿地など、ときに群生する西アジア～ヨーロッパ原産の外来植物で多年草。根茎はよく発達し葉は長さ60～100cm、幅2～3cmで中肋が目立つ。花期は5～6月、茎は高さ60～100cmで葉よりもやや高く上部で分枝し黄色い花を1～2個つける。外花被片は黄色で大きいが内花被片は目立たない。鹿沼市域では各地で普通に見られる。

カキツバタ　草本

● **被子植物／アヤメ科**

平地から低山地の水湿地を好む多年草。葉は長さ30～70cm、幅20～30mmで中肋はない。花期は5～6月で高さ40～70cmの花茎の頂部に2～3個の花をつける。花は青紫色で径12cm内外。外花被片の中央に白色の分岐した太いすじがある。果実は円柱状で長さ4～5cm、上向きにつく。鹿沼市域での分布は非常に少ない。和名は「書付け花」で昔、この花を布にこすり色を付けたためと言われている。

シャガ　草本

● **被子植物／アヤメ科**

平地から低山地のやや湿ったところや日陰を好む常緑の多年草で大群落をつくることがある。葉は光沢があり長さ30～60cm、幅2～3cmで肉厚。花期は4～5月、高さ30～60cmの花茎が立ち先の方で分枝し多数の花をつける。花は径5cm内外で白紫色、外花被片は縁にぎざぎざがあり中脈に沿って黄橙色の斑紋がある。内花被片は小型で先が浅く2裂する。

ニワゼキショウ　草本

● **被子植物／アヤメ科**

平地の日当たりのよい芝生や草地、道端などに普通に見られる北アメリカ原産の小型の多年草で栽培品が逸出したもの。茎は高さ10cm内外で、平たく狭い翼がある。葉は狭く細長い剣状。花期は5～6月、葉の間から出た茎は頂部で分枝し枝先の苞葉の間から径1．5cmほどの赤紫色の花を2～5個次々につける。花は1日でしぼむ。

グンバイトンボ

● **トンボ目 ／ モノサシトンボ科**

体長：35～40㎜　出現期：初夏～夏

グンバイトンボは平地から山地のおだやかな清流域に生息している。オスの中あし、後ろあしの一部は、白色で軍配（ぐんばい）状に広がっていてよく目立つ。

オスはなわばりをつくり、ほかのオスにであうと、この白い軍配状のあしを広げてにらみ合う。メスに対しても同じようにあしを広げて自分を見せびらかす。

グンバイトンボの産地は局地的で、生息には清らかでゆるやかな流れが絶対条件である。水質汚染などちょっとした環境変化で生息できなくなる。

近年、東日本では特に減少が目立ち、「レッドデータブック」の区分け基準では、環境省:準絶滅危惧、栃木県:絶滅危惧Ⅰ類（A）である。栃木県内では、何カ所かの生息地が確認されているが、すでに絶滅したと考えられる場所も多い。1990年以降は確認されているのは鹿沼市域だけである。

グンバイトンボは稀少、貴重なトンボであるので、県内で2020年も生息が確認できている唯一の鹿沼市域で、生きつづけてくれることを願っている。

アオイトトンボ

● **トンボ目 ／ アオイトトンボ科**

体長：35～45㎜
出現期：初夏～秋

全身が金緑色で一部に白っぽい粉をふく。平地～山地の止水域周辺や近くの林内で見られる。類似種でひとまわり大きなオオアオイトトンボもいる。

ホソミオツネントンボ

● **トンボ目 ／ アオイトトンボ科**

体長：35～42㎜　　出現期：初春～晩秋

平地～山地、止水域周辺や近くの林内でも見られる。成虫で越冬する数少ないトンボで、冬に池や沼が近くにある雑木林で、細い枝をよく観察すると見つかる。春になると青色に変化する。類似種にオツネントンボがいるが、本種ははねを閉じると、前・後のはね前縁の縁紋が重なるが、オツネントンボは重ならない。

Column　海を渡ってくるトンボがいるんだよ

そのトンボはウスバキトンボという名前です。「薄いはねの黄色いトンボ」とい意味です。

ウスバキトンボは毎年春先に、南西諸島、九州南部に発生し、世代交代（卵から親になること）をくり返しながら、日本列島を北上してきます。

世代交代は、短く約1ヶ月で、卵からヤゴになり成虫になることができます。

はねは幅広く、飛びやすく、野原、水田、河川敷、グラウンド、駐車場など開けた地上を群れで飛びながら、休むことは少なく、少しずつ移動します。きっと、みなさんも見かけたことがあるにちがいありません。

そうして北上をつづけ、鹿沼市域では8月中旬のお盆の頃に多く見られるようになるため「精霊トンボ」などと呼ばれています。

秋になっても、北上をつづけ、津軽海峡をこえて北海道にまで飛んでいきます。しかし、寒さに弱く、幼虫は越冬できずに死に絶えてしまいます。こうした不思議な生き方は分布域を広げようとする本能なのでしょうか。

ツツドリ

● **カッコウ目／カッコウ科**
体　長:32.5cm　　時　期:夏鳥。
環　境:山地の林など。
頭から腰にかけての上面や胸は灰色で、翼は黒味がかっている。腹は白く、黒い横縞がある。カッコウに似ているが、カッコウのように開けた場所に出てくることは少なく、林内での行動が多い。「ポポッポポッ…」と筒をたたくような声で鳴く。鳥の声というより音に近い。主にセンダイムシクイの巣に托卵する。

オオコノハズク

● **フクロウ目／フクロウ科**
体　長:23.5～26cm　　翼　長:54～60cm　　時　期:留鳥。
環　境:平地から山地の林。
全体に灰黒色、黒褐色、褐色などが混じり、白斑もあり、複雑な模様をしている。羽角と呼ばれる耳のように見える羽がある。虹彩は橙色。日中は樹洞の中などで休んでいることが多く、夕暮れから活動を始める。オスは繁殖期に「ボーゥ ボーゥ ボーゥ…」と低い声で連続的に鳴く。

ヨタカ

● **ヨタカ目／ヨタカ科**
体　長:29cm　　時　期:夏鳥。
環　境:平地から山地の林など。
全体がほぼ黒褐色で、灰白色、褐色などの複雑な虫食い状の枯葉模様をしている。肩羽の灰白色がやや目立つ。昼間は太い横枝に平行にとまり、木に同化している。夕方から口を開いて羽音を立てずに飛び回り、昆虫などを食べる。繁殖期の夜に「キョキョキョ…」と連続して長く鳴く。

ホトトギス

● **カッコウ目／カッコウ科**
体　長:27.5cm　　時　期:夏鳥。
環　境:平地から山地の林など。
カッコウの仲間は皆似ていて外見で区別するのは苦労するが、最も小さい。「特許許可局」とか「テッペンカケタカ」などと聞きなされる特徴的な声で鳴き続ける。夜に鳴くことも多い。主にウグイスの巣に托卵する。

アオバズク

● **フクロウ目／フクロウ科**
体　長:27～30.5cm　　翼　長:66～70.5cm
時　期:夏鳥。　　環　境:平地から山地の林や社寺林など。
頭から尾羽にかけての上面は黒褐色で、下面は白く、黒褐色の太い縦斑がある。羽角はなく、虹彩は黄色、尾が長く見える。夕方から早朝にかけて、ゆっくりしたテンポで「ホーホゥ　ホーホゥ」と二拍子で繰り返し鳴く。主に蛾や甲虫類などの夜行性の昆虫類を捕る。渡って来て間もない頃は、テレビアンテナなどにとまって鳴いていることもある。

いちご市
KANUMA
TOCHIGI JAPAN
STRAWBERRY CITY